真岡市行政評価システム

評価対象年度　令和7　年度　　**事務事業評価マネージメントシート**　　作成日　令和8年3月12日

事務事業名	休日夜間急患診療所運営事業	担当課・係	健康福祉部　健康増進課　地域医療係
政策名　No	2　「笑顔づくり」～安心と元気アップ！～	関連する SDGs･DX	
施策名　No	7　地域医療体制の充実		

成果指標 名称	単位	初年度からの実績値の比較 R7	R8	R9	R10	R11	目標値 R11
患者数	人	4,093					7,578
（うち真岡市民の数）	人	2,803					-
真岡市民の割合	%	68.5					-

事業内容

【事業概要】
・市民が休日・夜間の急病に対して、安心して受診できるよう、初期救急医療機関の運営を行う。
・診療時間　休日昼間（日曜日、祝日、年末年始）　9：00～12：00
　　13：00～17：00
　　休日夜間（日曜日、祝日、年末年始）　18：00～21：00
　　平日夜間（月曜日～土曜日）　18：30～21：30

前年度の課題（Check）

・休日夜間急患診療所を運営することにより、市民が休日及び夜間に安心して診療を受けられる環境を整えることができた。
・運営にあたっては、特別会計として平成30年度末に廃止となった芳賀地区急患センターからの繰越金を含めてまかなってきたが、令和3年度以降は繰越金がなくなったことから、一般会計からの繰入れを行っている。令和5年度は患者数増加による診療収入増加等により一般会計からの繰入れは行わなかったが、令和6年度は新型コロナに対する診療報酬の加算措置が廃止されたことや患者数が減少したことから、診療収入が大幅に減少したため、基準に基づき一般会計からの繰り入れを行った。
・診療収入の減少による収支の悪化は今後も続く見込みである。

7年度振り返り

【1】実績（Do）7年度に実施した事業
・市民が休日・夜間の急病に対して安心して受診できるよう、初期救急医療機関の運営を行った。
・診療業務や会計業務等の効率化を図り、インフルエンザの流行等による急患患者のひっ迫を防ぐため電子カルテを導入した。
・急患診療所における患者数
　R7 4,093人（うち真岡市民2,803人:利用割合68.5%）
　R6 4,896人（うち真岡市民3,332人:利用割合68.1%）
　R5 5,122人（うち真岡市民3,521人:利用割合68.7%）

【2】結果と課題（Check）
【結果】
・休日夜間急患診療所を運営することにより、市民が休日及び夜間に安心して診療を受けられる環境を整えることができた。
・運営にあたっては、真岡市休日夜間急患診療所運営基金の一部を取り崩し経常経費の不足分として補填した。
・電子カルテの導入により業務の効率化が図られ、患者サービスの向上及び医療スタッフの負担軽減につなぐことができた。
【課題】
・診療収入の減少による収支の悪化は今後も続く見込みであり、令和8年度からは赤字補填として一般会計より繰り入れることになったが、歳出の抑制や収入を増やす方法を検討する必要がある。

今後の方向性と具体策

□ 廃止　□ 休止　□ 目的絞り込み　□ 目的拡充　□ 事業統廃合　□ 事業のやり方改善　□ 予算削減　□ 予算増大　■ 現状維持(従来通りで特に改革改善しない)

【3】具体的な改善策(Action➡Plan)　課題に記載された内容の解決に向けた取り組みについて、**いつ、何を、どのように実施し解決に導くのかを具体的に**記載してください。

(1) ただちに取り組むべきこと
・患者サービスの向上及び患者数の増加を図るため、検査項目の追加等を検討する。
・医師会などからの専門的な知見をもとに収支の改善に取り組む。

(2) 長期的な計画で検討すること
患者数減少による診療収入の減など赤字になると一般会計からの繰入に頼らざるを得ない状況であるが、自助努力として歳出を抑える工夫や、医師会と協議し収入を増やす方法を検討する。